

## 会員資格ご継続（会費納付）及び手続きのご案内

平素より、ご支援を戴き篤く御礼申し上げます。

当会は、企業の運用益を財源とする財団法人とは異なり、会の事業や運動にご賛同いただいたみなさまの会費と寄付により、徹底した非営利活動を行う財団法人です。

2022年度「会員資格ご継続(会費納付)」をお願い申し上げます。

- ・昨年度より会費納付手続きが変わっております。詳細は、同封の資料をご確認ください。
- ・封筒ラベル記載の会員種別と「払込票(入会申込書)記載の会員種別表を照合し、払込票(入会申込書)に、ご希望の種別をご記載のうえ、お払込み下さい。
- ・会費や寄付金の領収書は、銀行振込票とさせていただきます。手書き領収書をご入用の方は事務局までお申し付けください。

## 事務局からのご案内

- ・ご入会いただける方を随時募集しています。  
また、会の活動支援のために、会員や寄付者のご紹介をお願い申し上げます。
- ・会員・市民の皆さまからのご意見を、今後ともお寄せください！お待ちしております。  
当会ホームページ(<https://zaidan-edojo.or.jp/>)のお問い合わせコーナーからも送信できます。
- ・Eメールアドレスをご登録し、セミナー情報・ニュース等をご案内致します！  
よろしければ、お名前(フリガナ)をご記載のメールを下記当会アドレスまでお送りください。  
また、ご変更の際はお知らせ頂ければ幸いです。
- ・当会は2004年市民運動「江戸城再建を目指す会(後のNPO法人)」を創立以降12年の運動の集大成として2017年1月に一般財団法人を設立し、現在に至っております。詳細は「市民団体の創立からこれまでに至る主な活動の歩み」をご覧ください。※ご参考 当会HP「2004年 市民団体の創立からこれまでに至る主な活動の歩み」(<https://zaidan-edojo.or.jp/aboutus/koremade/>)

現在のNPO法人「江戸城天守を再建する会」は、天守単体の復元を目指し世論喚起の活動を旨としております。当会の江戸城全体整備構想における事業や運動論とは異なる活動をしておりますので、ご留意頂きますようお願い申し上げます。

### 【編集後記】

世界経済フォーラム2022年発表、観光面からの国・地域観光ランキングでも日本は初めて1位しかも、観光資源の中で文化資源は第3位とは驚き！？OECD・世界も注目する東京の文化財の観光体験はここでも未開発、愈々、これからです。(0) 有識者と会員市民の声による東京の新たな価値創造に向けて、歴史文化資源を活かした観光まちづくり、本丸御殿を含む江戸城全体整備構想の策定が期待されます!!  
酷暑から一転、秋へ、寒暖差に体調を崩す声があちこちで聴かれます。みなさまもご自愛ください。U)

## お問い合わせ先

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス  
〒102-0075 東京都千代田区三番町1-16 Eメール: [zaidanedojo@gmail.com](mailto:zaidanedojo@gmail.com)  
ホームページ <https://zaidan-edojo.or.jp/> FAX :03-3977-3510  
※現在、新型コロナウイルス対策やデジタル化の推進のため、テレワークを中心に活動しております。ご用の際はEメールもしくは郵便にてご連絡頂けましたら幸いです。

# 近未来の世界遺産を目指す 江戸城・城下町ルネッサンス

2022年9月17日  
第14号

## ご案内

- ・理事長ごあいさつ
  - ・寄稿『東京の観光を強くする「歴史文化資源を生かした観光まちづくり」への期待』
  - ・寄稿『旅の伝道師の人材育成顕在化されていない江戸東京の価値・魅力』
- 特別企画：江戸東京歴史文化回廊江戸城下町の歩きかた

## 本丸御殿等江戸城全体構想の策定及び 江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくり

## 「VISION2032」へ 会員・市民の声、有識者の声を活かした提言活動

平素より当会の活動にご支援を賜り篤く御礼申し上げます。



世界・OECDの調査でも注目されている、日本一多い東京の文化財、歴史文化資源を活かした観光まちづくりは、これまで、遅れをとって来ましたが、コロナ禍の中、今まさに、強力に推進すべき時期が到来しつつある、と存じます。

現在、提言活動は、広く社会一般に普及・啓発活動を推進すると共に、先ずは、東京都知事、千代田区長を始めとする自治体と関連行政の文化庁長官、観光庁長官などの関係機関に対し、VISION2032・提言書並びに調査研究委員会の報告書など、実務レベルのキーパーソンとのやり取りを進めております。

東京の都心部は、現在も大規模開発が進められている中で、第一級の学識者による調査研究委員会の活動並びに調査研究報告書及び提言書を通して、主体的かつ意欲的な取り組みを進めていることについて、相応の評価を得ております。

このテーマは、官民の横断的なネットワークの連携が必要であることは、云うまでもありません。当会はもとより多様なステークホルダーが、確りと手を組めるようにする為、地道で着実に、然もプロセスを重視する取り組みと提言活動が肝要である、と存じます。

次号では、本丸御殿等江戸城全体構想の策定及び江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくり「VISION2032」につき会員・市民の声を特集致します。

この機会に、多くの皆様からのご意見、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしく、お願い申し上げます。

2022年（令和4年）9月好日  
理事長 小竹 直隆

## 東京の観光を強くする 「歴史文化資源を生かした観光まちづくり」への期待



清水 哲夫

東京都立大学 教授

略歴：東京工業大学工学部土木工学科卒業。1995年東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻修了。2002年に東京工業大学から博士（工学）授与。2001年東京大学大学院工学系研究科助手。2007年同准教授を経て、2011年より現職。

2017年より公益社団法人日本観光振興協会総合調査研究所長兼日本観光振興アカデミー学長を兼務、その他官公庁や自治体の多数の専門委員会委員他。

観光面から国・地域の競争力を評価してきた世界経済フォーラム(World Economic Forum)が、2022年5月に2021年版の国・地域観光ランキングを発表した。このランキングの基となっている指標は**旅行・観光開発指標(Travel and Tourism Development Index: TTDI)**と呼ばれ、旅行・観光の資源力や持続性など17分野112指標を総合した値が算出される。

このランキングで**日本が初めて1位となって、観光界隈ではちょっとした騒ぎとなった**。TTDIの各指標は統計値だけでなくエグゼクティブによる主観評価も用いられており**日本における高付加価値の観光体験に対する世界のリーダー層や富裕層の期待が現れている**と見て良いだろう。

このTTDIをもう少し詳しく見てみる。17分野のうち**日本の評価が高いものに「観光資源」があり、特に文化資源については世界3位となっている点は注目に値する**。文化資源指標の大半は、UNESCOによる世界文化遺産や無形文化遺産といった単純な資源数カウントであり、それほど奥深いものとは言い難い。しかし、「有形/無形遺産がどの程度保護されているか？」といった質問ベースの指標もあり、短中期的にはこの回答傾向がランキング変動に影響する可能性はあり得る。

OECDの国々では、基本的に拠点都市の文化資源が観光競争力の源泉となっていると考えられる。日本ではやはり近畿圏と東京圏が国を代表して頑張らなければならないだろう。**文化資源は必ずしも歴史的なものだけではないものの、現代文化も過去からの連続性で規定されるのだとすると、やはり地域の歴史をきちんと記録し、一定の“証拠物件”とともに見せていく努力は必要だろう**。この面で**東京圏は近畿圏と比べて見劣りすることは否定できない**。

オーバーツーリズムやコロナ禍を経て、地域コミュニティにとって観光はどちらかといえばネガティブな印象が強くなった。しかし、サービスで稼がなければならない産業構造になった日本において、観光は総合産業として受け入れる必要があるし、人口減少が始まった昨今、東京圏でさえも観光を含む来訪者の助けを借りないと地域の基本的な生活インフラも支えることができないかもしれない。

これら課題の解決に向けて鍵を握るのは、保存と利活用の**多様なステークホルダーがガッチリとタッグを組み、日本を代表する観光目的地である東京の中心で「歴史文化資源を生かした観光まちづくり」を強力に推進することだと信じている**。相変わらず大規模都市再開発が進行する東京中心部においても、意欲的な調査の結果、依然として歴史的建造物の一部であっても“証拠物件”は一定程度残されていることは理解できたし、**実物がなくても可視化できるDX技術も豊富に登場してくる**。NFT技術等で活動資金調達も容易にできるかもしれない。できることはまだまだ沢山ある。

## 旅の伝道師の人材育成 顕在化されていない江戸東京の価値・魅力

坂本 友理

学校法人国際文化アカデミー常務理事  
JTB トラベル&ホテルカレッジ校長



略歴：慶應義塾大学法学部法律学科卒業。1987年株式会社日本交通公社（現JTB）入社。ダイバーシティ推進室長、JTB首都圏執行役員等歴任。2022年4月現在、学校法人国際文化アカデミー常務理事・JTBトラベル&ホテルカレッジ校長。日本旅行業女性の会 会長、公社）日本バレーボール協会理事。当会顧問。

当校は、旅行会社JTBが設立した専門学校（2か年）であり今年40周年を迎える。

2020年度「グローバル・インバンドコース（以下、GIコース）」を新設した。

コロナウイルス感染発症前にインバウンドマーケットが隆盛し、海外のお客様に日本の魅力を日本語のみならず、英語でも表現できるグローバル人材を育成し、新たな採用領域も狙ったコースで、新設にあたり目玉となるカリキュラムを2年間検討した。

結果、日本の魅力として欠かせない東京と京都各々の知識を学ぶ授業を導入し、東京については、公益財団法人東京観光財団(TCVB)の「東京シティガイド検定」を教材に、「江戸東京見聞学」という授業を実施している。準備段階の2019年に、検定テキストを執筆された先生方のご協力で講義を実施、筆者も拝聴したが、**江戸と東京という今昔の変遷がなんと面白いこと、学生以上に東京の歴史・文化の奥深さを再発見した**。

コロナ収束後に訪れたい国2020日本1位（日本政策投資銀行、公益社団法人日本交通公社共同調査）、地域ブランド調査2021（ブランド総合研究所）で都道府県別東京4位であるものの、外国人の選ぶ観光地ランキング2020（トリップアドバイザー）では、**1位広島原爆ドーム、2位京都伏見稲荷神社であり、ようやく11位に東京都庁展望室がランクイン**。豊富な観光資源のある東京の価値はまだ顕在化されていない。

まちづくりの観点から人材を養成している大学観光系学部も増加している。地域創生、地域貢献活動に従事したい学生も多い。従来にはない発想を持ち得ているZ世代の学生が、劇的に変化を遂げた東京を、他地域との対比の中で、再認識してくれることを期待している。当校も、前述の授業はスタートしたばかりでゴールは発展途上であるが、**東京をこれまで以上に好きになり（就職は都内志望が多い）、東京を訪れた旅人（日本人も外国人も）にコーディネートする、いわゆる旅の伝道師として活躍する人材を育成していく所存である**。

◀ (清水 哲夫氏 寄稿 参考)

World Economic Forum (2022) Travel & Tourism Development Index 2021  
- Rebuilding for a Sustainable and Resilient Future -  
INSIGHT REPORT, [https://www3.weforum.org/docs/WEF\\_Travel\\_Tourism\\_Development\\_2021.pdf](https://www3.weforum.org/docs/WEF_Travel_Tourism_Development_2021.pdf)